



医療法人パリアン理事長 川越 厚

現代ホスピスケアの生みの親である C.Saunders は、ホスピスケアという概念をはじめて打ち出した時、痛みの緩和をホスピスケアの医療の中心に位置づけた。自分自身が経験を積み重ねるほど、時代を超越した彼女の哲学と実践力に感服する次第である。

痛みや呼吸苦を十分緩和しないと、ケアする者がどんなきれいごとを言っても、患者や家族は我々医療者を心から信頼し受け入れることはありえない。スピリチュアルケアはホスピスケアのエッセンスとなる痛みではあるが、身体的な苦痛が十分緩和された時に患者が経験する深い痛みであることを、ケアに携わる者は忘れてならない。

ところで在宅における痛みの緩和は、病院と比較してうまくいくのだろうか。在宅では痛みの緩和が難しいのではないだろうか。この問題との関連で、今から 20 年前に経験した一人の患者さんのことを話したいと思う。

前立腺がん末期の 80 歳代半ばの M さんは、骨転移に伴う痛みが強いため、入院中は鎮痛剤の注射をたびたび受けていた。「何があっても、夫を在宅で看取りたい」という奥様の強い希望によって在宅ホスピスケアを開始したのではあるが、当時は私自身まだ在宅ホスピスケアの経験が浅く、痛みの緩和を在宅でどうすればよいか、迷っていた。

ところが家に戻ってから M さんは、あれほど強かった痛みを全く訴えることがなかった。何も言わないのだから本当はそっとしておきたかったのだが、それでも不思議に思った私はある時 M さんに、「本当に痛くないのですか」と恐る恐る質問した。よっぽど私の質問する姿がおかしかったのか、M さんは笑いながら私の愚問に答えてくれた。

「痛くなりそうと思ったら、まずタバコを一服します。それから家内にコーヒーを準備させます。コーヒーが出来上がるころには痛みはすっかり落ち着き、一杯飲む時にはどこかへ飛んでいってしまいます。」

M さんは、枕元に置いていた MS コンチン（当時発売間もない、経口のモルヒネ徐放剤）を一度も内服することなく、在宅で安らかな最後を迎えられた。

これまでの研究によれば、在宅の方が疼痛緩和に優れていることが明らかになっている。その理由はいくつか考えられるが、一つは痛みを“総合的な痛み、いわゆるトータルペイン”として、在宅では対応できることがある。M さんの例では、痛みに対する心理的な不安（心理的要素）

(2ページへ)





(1ページから)

が自身の手によって緩和されているし、なによりも最愛の奥様が傍にいて世話をしてくれること(社会的要素)が痛みの緩和に役立っている。二つ目の理由として“在宅ならでは”の対応が可能なことをあげなければならない。煙草を吸う、飲みたいコーヒーをその場で準備してもらおう。在宅ならば当たり前のことであるが、集団生活をする入院施設では難しい。

「がん患者の心のケア 聞き書き講座 in すみだ」開催

in (NPO) 5 18 () () KFC 30



新 任

AB



看護師

B



紹 介

A



O

訪問ボランティア

あんなことこんなこと

Bさんは、いつもきちんと洋服に着替えメイクをしてお出迎え。
Cさんは、久しぶりに胸はずませ、帽子とスカーフをお買い物。出かけられるところはほとんどなく近所の歯医者さんくらいなのに・・・

病気でも！出かけられる場所が限られていても！いくつになっても！！

「女性のおしゃれ心は永遠」♪

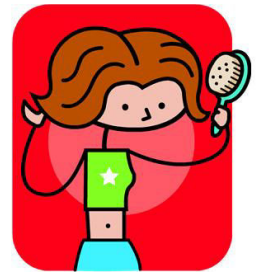
☆K・Y☆

～おしゃれ心～

今までにたくさんの女性の患者様を訪問させて頂きました。

振り返るといつも感じるのは“女性のおしゃれ心”

Aさんは、「あなたの爪キラキラして綺麗ね」と。



川越 厚先生が「がん患者の在宅ホスピスケア」を出版

がん患者の 在宅ホスピスケア

川越 厚



在宅ホスピスケアは緩和ケアの原点であり、
目標とする到達点でもある。

20数年にわたる実践に基づいた知恵と力は本書に結実し、
ケアにあたる医療や福祉の専門職と患者・家族に、ケアの
原点とゴールをわかりやすく、かつ具体的に示している。

医学書院

現場での長年の経験から生まれた貴重な参考書
本書は、在宅で日々黙々とホスピスケアに携わる医師や
看護師などの医療者をはじめボランティアなどの経験
をもとに、在宅ホスピスケアの方法やコツをまとめたもの。
豊富な事例からケアの実際を知るだけでなく、死に
逝く患者の生き様や感動も感じられる。がん患者のホス
ピスケアとは何かを改めて考えるうえで参考になる書
(以上、医学書院ホームページより)。

パリアンでも販売しております(著者割引あり)。

【目次】

- I. 在宅ホスピスケアの歩みと理念
- II. 在宅ホスピスケアのプログラム
- III. 実際の在宅ホスピスケアの流れ
- IV. 死の教育
- V. がんの種別による留意点とケアのポイント
- VI. 社会保障制度の活用
- VII. 医療用麻薬

第2回パリアン公開講演会 ～「がん患者の在宅ホスピスケア」出版記念～

■講師：川越 厚

■日時：平成25年8月31日(土)
13:30～15:30

■会場：KFCホール
(第一ホテル両国の3階)

■参加費：無料

■参加申込：お名前(複数可)、代
表者電話番号をご記入の
上、FAXまたはメールで
医療法人社団パリアンに申
込みください。

定員(300名)に達しましたら、締め
切らせていただきます。

FAX: 03-5669-8310

メール: webmaster@pallium.co.jp

伝言板



川越 厚先生、7月7日(日)BS-TBSに出演

川越 厚先生は7月7日(日) 21時～22時54分の「週刊BS-TBS報道部」の中で、特集「独居の在宅医療(仮題)」に出演します。是非ご覧になってください。

パリアンが関連する学会及び学習会等のお知らせ

- ・日本ホスピス緩和ケア協会年次大会参加：7月13日(土)～14日(日)
- ・東京大学医学部公衆衛生学実習：7月29日(月)～8月2日(金)
- ・帝京大学医学部公衆衛生学実習：8月19日(月)～23日(金)
- ・アジア・パシフィック・ホスピス・カンファレンス 10月10日(木)～13日(日) バンコク
- ・川越厚 出演 BS-TBS 7月7日(日) 21時～22時54分
「週刊BS-TBS報道部」の中での特集「独居の在宅医療(仮題)」
- ・川越厚 出演 ラジオ日経「日曜患者学校」毎月第2日曜日 21時～21時30分(次回は7月14日)
「終了後の放送は、ラジオ日経のホームページ(<http://www.radionikkei.jp/inochi/>)でいつでも聞くことができます」
- ・日本死の臨床研究会年次大会 11月2日(土)～3日(日) 島根県松江市

7月のボランティア活動予定

- ・第二回ボランティアの集い：7月20日(土)午前10時30分～
「アロマ・マッサージ」のお話 吉野和美さん
- ・訪問ボランティア：7月20日(土)午後1時～
- ・デイホスピスボランティア：7月5日、12日、19日、26日
- ・手作りボランティア：7月23日(火)午後1時～3時
- ・事務ボランティア：7月20日(土)午後1時～



7月のデス・カンファレンス、事例検討会の開催予定日

デスカンファレンス：7月26日(金) 17時～18時

事例検討会：7月19日(金) 17時～18時



事務ボランティアの四方山ばなし

今、私は坐骨神経痛と闘っています。坐骨神経痛というのは、背骨の4番目と5番目が狭くなりその間の椎間板がずれて神経に圧迫しておこる症状です。坐骨神経は人体の中でもっとも太く、長い抹消神経で、腰のあたりから足のつま先まで伸びており、坐骨神経が圧迫されると、腰からふくらはぎや足のつま先まで、鋭く電気が走ったような痛みやピリピリとしたしびれなどの症状が現れます。腰が悪いのに足のあちこちが痛み・しびれています。人によって痛みはそれぞれですが、小心の私にとっては激痛の部類です。

発症から2か月が過ぎ、痛みが消えてくる頃かと心待ちしていましたが、いっこうにその心配がないため、整形外科から麻酔科に変更しました。

治療法は痛み止めに漢方を追加したものでしたが、その先生の言葉に、先が見えなかった道に灯りを灯してくださいました。

「痛みは誰にもわかってもらえないから辛いよな。見ている家族も辛い。痛みはきっと治してあげられると思う。私はあなたの痛みとずっと付き合うから」

この言葉に私はもとより、車椅子を押していた家族にも、消えかかった完治への希望を灯してください、感無量になりました。

パリアンでは毎日毎日が患者さんと家族に寄り添い、そんな感動の場面が繰り返されています。私もそのグループの一員となっていることに誇りをもって、今後とも微力ながら貢献していきたいと強く思いました。(I・E)